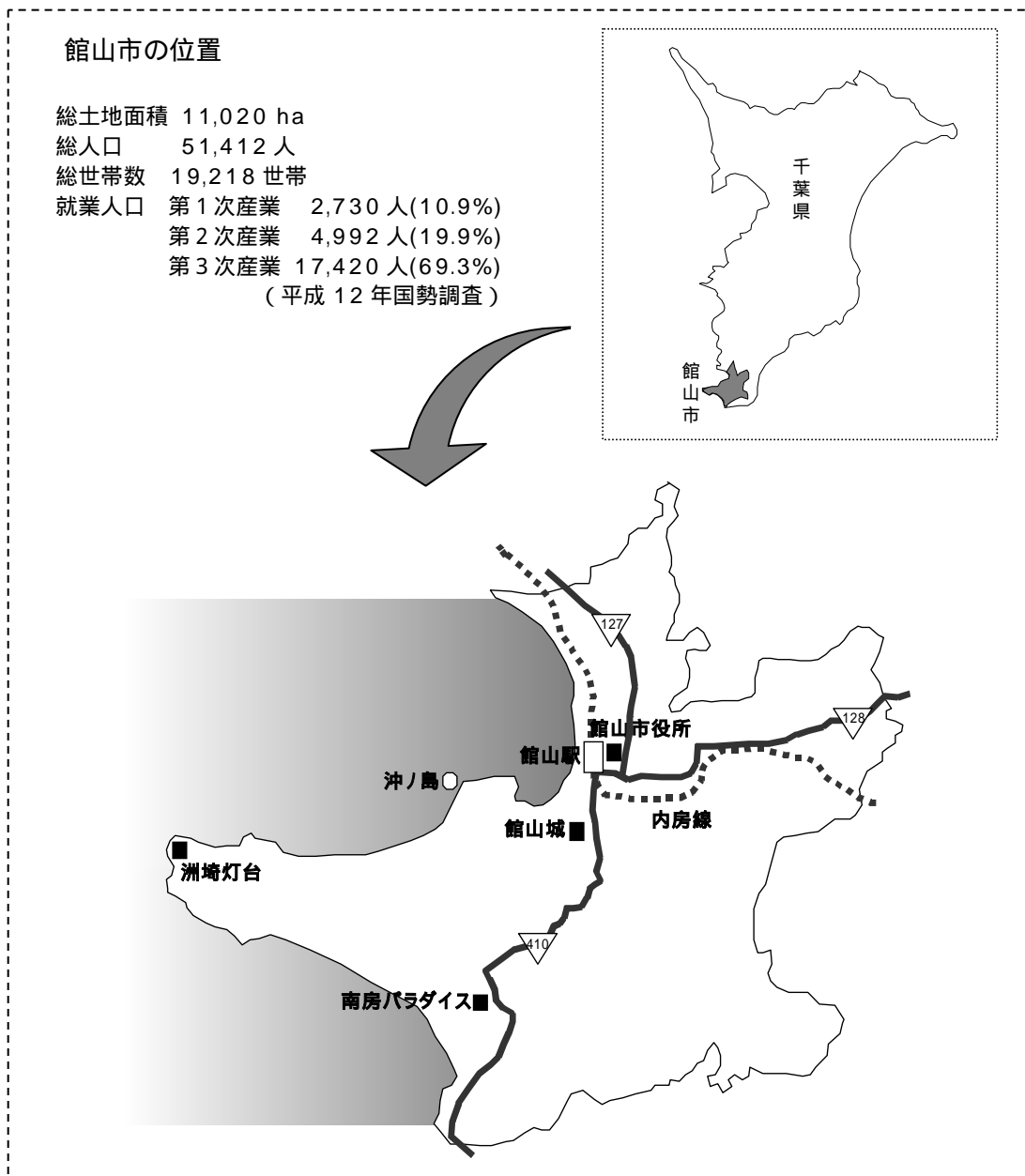


2章

南部地域（館山市）での取り組み

2 - 1

南部地域の概要



館山市の主な地域資源

沖ノ島

- ・関東大震災で隆起し、昭和 28 年ごろ陸続きになった「沖ノ島」。
- ・周囲約 1 kmの沖ノ島は自然の宝庫。陸上には 240 種あまりの植物、海中には 20 種以上の造礁サンゴが見られ、北限に近いサンゴの海として知られている。

〔沖ノ島〕

**北条海岸（北条海水浴場）**

- ・海水浴場として賑わう北条海岸。波静かな館山湾は別名「鏡ヶ浦」と呼ばれ、時には帆船が停泊する姿も見られる。

館山城

- ・館山城は別名里見城ともいい、天正 16 年(1588)安房の名門、里見氏 9 代目、義康が築き本拠とした。南総里見八犬伝の舞台としても知られている。
- ・小高い丘の上からは館山湾全体を見渡せ、遠くは富士山や三浦半島も望むことができる。

崖観音

- ・海で生活する人々の信仰をあつめた崖観音。山の中腹の崖に直接観音様が彫られている。晴れた日には、富士山や伊豆大島も望める。

ウミホテル（館山栈橋）

- ・毎月第一土曜日、県立安房博物館南側の岸壁を会場に、ウミホテル観察会が開催される。

洲崎灯台

- ・東京湾入口の標として、多くの船の安全を見守っている。周辺は花卉栽培が盛んで、花と海が美しい景観を織りなしている。

南房パラダイス

- ・シンガポール国立植物園と姉妹園。14.5ha の敷地の中に、300m におよぶ温室が続き、約 3,800 m²の鑑賞温室は国内でも最大級である。敷地内には、約 6 千種類の熱帯・亜熱帯等の植物が生育され、蝶館や動物広場、小鳥館、シンガポールらん館などもある。

花摘み

- ・館山駅を降りるとたくさんの花々が出迎えます。冬知らずの温暖な花畑は、12 月のうちからポピー、ストック、菜の花など色鮮やかに咲き乱れる。
- ・南館山自然休養村や館山ファミリーパーク内でポピーやストックの花摘みが楽しめる。

観光定置網漁・観光地曳網漁

- ・海に広げられた網を、砂浜から大勢の人で引っ張り上げる地曳網。魚の通り道に長い網を張り、通過する魚が中に入るのを待つ定置網は、早朝にその網を引き上げる漁法。とれる魚は、季節によってさまざま。
- ・希望により、指定の時間に出港し一網丸ごと買い取りもでき、また定置網でとれた魚はレストハウスにてバーベキューで食べられる。

観光いちご園

- ・館野・豊房地区に観光農業の一環として、昭和 56 年 2 月に開園。ハウス 13 棟に面積 15,000 m²を有し、味のよい麗紅、女峰、とよのかのいちごを自らつんで食べられる。開園時期 1月上旬～5月上旬。

2 - 2

南部地域のコミュニティビジネスの現状

- ・南部地域（館山市）の市民活動団体は41団体。分野は保健・医療・福祉が多くなっているが、多岐にわたっている。
- ・NPOの件数を見ると千葉県全体では518団体が認証を受けている（平成15年11月13日現在）が、館山市は8団体が認証済みである。
- ・千葉県内の市におけるNPO認証団体数では館山市は中位に位置しているが、人口1万人あたりの件数では、県内トップとなっている。
- ・コミュニティビジネスに対する地域の状況は以下の通りである。

自治体のコミュニティビジネス支援体制

地域の新たな担い手としての期待はあるが、支援体制は現状ではほとんどない。

有力中間支援型NPOの存在

現状存在していない。

既存CB団体数

昨年11月現在で8団体のNPOが存在している。

また、市民活動団体は41団体存在しており、活動分野は多岐にわたっている。

意欲あるCB予備軍の存在

「たてやま・海辺のまちづくり塾」「南房総IT推進協議会」等のNPO、「たてやま・海辺の鑑定団」をはじめとする、館山市の自然環境、自然資源を活用した市民団体の活動が見られる。

地域住民のCBへの理解

現状理解されていない。市民の認知度、行政の理解を図る必要がある。

館山市の市民活動団体一覧

千葉県内NPO件数比較

	名 称	主な活動分野	区 分	市町村	件数	人口 (H15.10.1)	人口1万人 当り件数
1	たんぼぼの会	保健、医療又は福祉の増進	NPO	千葉県	518	6,028,315	0.86
2	なの花会	保健、医療又は福祉の増進	NPO	千葉市	104	912,623	1.14
3	絃・竹・踊 ミュース安房	文化、芸術、スポーツの振興	NPO	船橋市	54	565,383	0.96
4	南房総精神障害者の生活を支える会	保健、医療又は福祉の増進	NPO	柏市	42	332,690	1.26
5	結いの会	保健、医療又は福祉の増進	NPO	市川市	40	463,103	0.86
6	南房総IT推進協議会	まちづくりの推進	NPO	松戸市	34	472,728	0.72
7	たてやま・海辺のまちづくり塾	まちづくりの推進	NPO	我孫子市	18	130,942	1.37
8	館山外洋ヨットクラブ	文化、芸術、スポーツの振興	NPO	八千代市	17	177,196	0.96
9	館山ウミホテル観察倶楽部	自然体験	市民活動団体	流山市	16	151,752	1.05
10	たてやま・海辺の鑑定団	自然体験	市民活動団体	佐倉市	16	172,557	0.93
11	貝殻伝説工房	自然体験	市民活動団体	市原市	14	280,001	0.50
12	ホモ デルフィナス	自然体験	市民活動団体	木更津市	11	122,806	0.90
13	館山太極道交會	社会教育の推進	市民活動団体	四街道市	10	83,052	1.20
14	コスモス会	社会教育の推進	市民活動団体	浦安市	10	147,009	0.68
15	北条第二茶道会	社会教育の推進	市民活動団体	野田市	10	150,707	0.66
16	北条茶道	社会教育の推進	市民活動団体	銚子市	9	76,345	1.18
17	館山市手話サークル	社会教育の推進	市民活動団体	習志野市	9	157,877	0.57
18	北条舞踊	社会教育の推進	市民活動団体	館山市	8	50,628	1.58
19	七宝焼 なの花	社会教育の推進	市民活動団体	印西市	8	59,962	1.33
20	館山子ども文化研究会	社会教育の推進 他	市民活動団体	茂原市	8	93,920	0.85
21	紙粘土 ドール	社会教育の推進	市民活動団体	白井市	6	52,363	1.15
22	北条囲碁同好会	社会教育の推進	市民活動団体	君津市	6	91,401	0.66
23	館山国際交流協会	国際協力	市民活動団体	成田市	6	98,607	0.61
24	安房の海を守り育む会	環境の保全	市民活動団体	富里市	5	51,099	0.98
25	館山音楽鑑賞協会	文化、芸術、スポーツの振興	市民活動団体	東金市	5	61,115	0.82
26	館山市文化団体連絡協議会	文化、芸術、スポーツの振興	市民活動団体	鎌ヶ谷市	5	103,102	0.48
27	館山市文化財保護協会	文化、芸術、スポーツの振興	市民活動団体	袖ヶ浦市	4	59,306	0.67
28	あわ夢まつり実行委員会	子どもの健全育成	市民活動団体	八街市	4	75,212	0.53
29	きらきら編集局	子どもの健全育成	市民活動団体	勝浦市	3	22,671	1.32
30	八幡祭礼マップ作成委員会	文化、芸術、スポーツの振興	市民活動団体	旭市	3	41,144	0.73
31	しろうと百姓の会	経済活動の活性化	市民活動団体	佐原市	3	47,123	0.64
32	那古史編さん委員会	文化、芸術、スポーツの振興	市民活動団体	鴨川市	2	29,711	0.67
33	パネ研あわ	子どもの健全育成	市民活動団体	富津市	1	51,339	0.19
34	真倉あゆみ会	保健、医療又は福祉の増進	市民活動団体				
35	ひよこの会	子どもの健全育成	市民活動団体				
36	給食ボランティア	保健、医療又は福祉の増進	ボランティア団体				
37	カーボランティア	保健、医療又は福祉の増進	ボランティア団体				
38	麦の会	保健、医療又は福祉の増進	ボランティア団体				
39	湊川の会	保健、医療又は福祉の増進	ボランティア団体				
40	おもちゃ図書館(修理)	子どもの健全育成	ボランティア団体				
41	お話し会	子どもの健全育成	ボランティア団体				

2 - 3

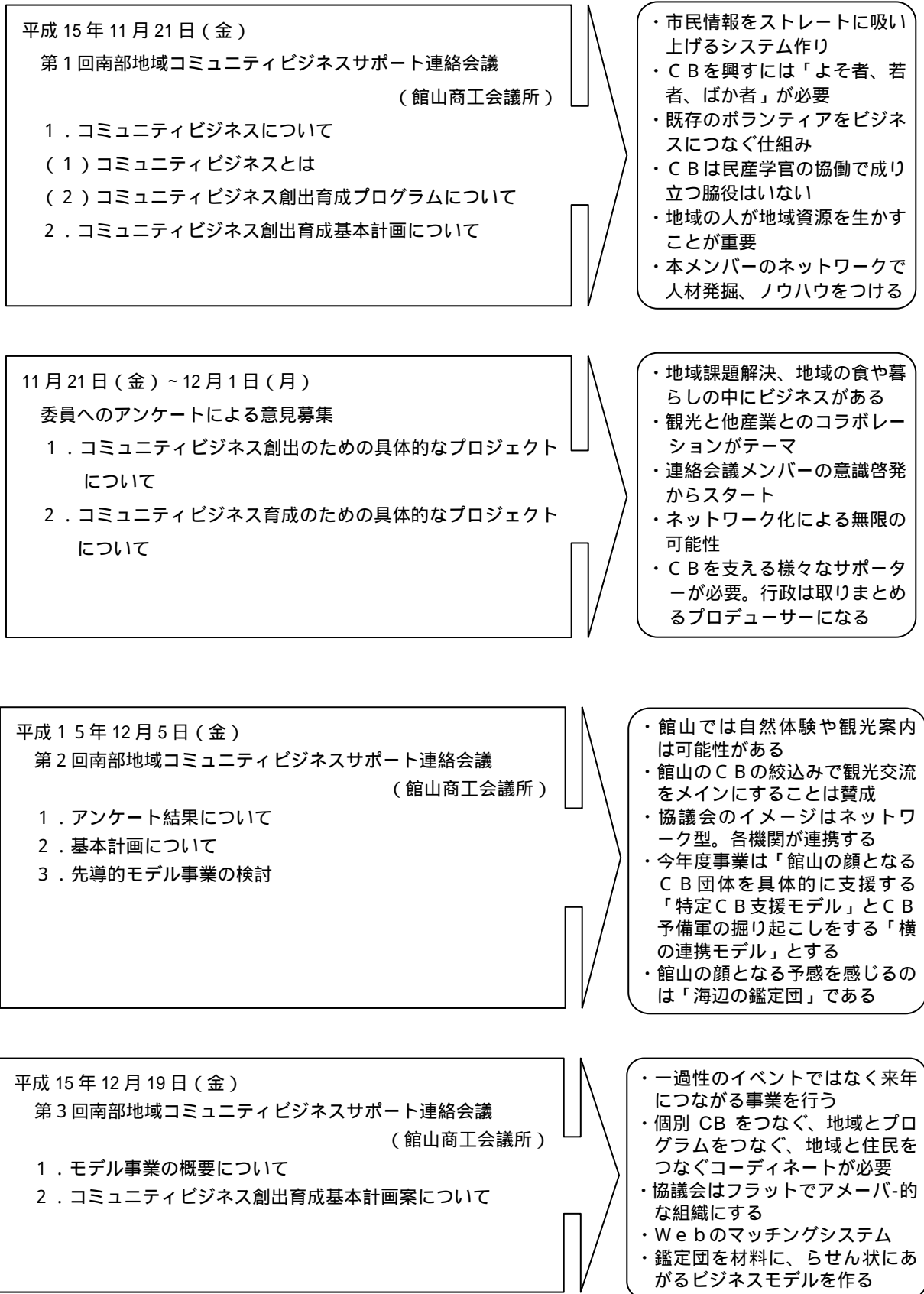
南部地域の活動状況

- ・南部地域では、3回のコミュニティビジネスサポート連絡会議を開催し、コミュニティビジネス創出育成基本計画を検討すると共に、コミュニティビジネス創出育成のためのモデル事業を検討した。
- ・平成16年1月から同年3月にかけて、コミュニティビジネス創出育成のためのモデル事業（横の連携モデル事業と特定コミュニティビジネス支援事業）を実施した。

コミュニティビジネスサポート会議での検討事項	主 な 意 見
<p>平成15年11月6日（木） 南部地域コミュニティビジネスサポート連絡会議準備会 （館山市役所）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業概要説明と館山市の地域特性分析 2. 基本計画（ビジョン及びアクション）を決めるための手順の検討 3. コミュニティビジネスサポート連絡会議のメンバー選定 4. 第1回コミュニティビジネスサポート連絡会議の日程調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目にはC Bの概略説明が必要 ・準備会のメンバーのほかに、観光協会、房日新聞、館山信金、商店街振興組合を入れる ・館山市の流れは観光交流であり、C Bもこの中に位置付ける ・基本計画は潜在層を呼び起こすことを重点にする

南部地域コミュニティビジネスサポート連絡会議名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職
浅井 信	館山市観光協会・観光プロデューサー
遠藤 陽子	NPO法人 千葉自然学校・理事
三幣 和義	館山銀座商店街振興組合・副理事長
鈴木 聡明	NPO法人 南房総IT推進協議会・副理事長
須藤 幸二	房日新聞社・記者
高橋 幸民	NPO法人 たてやま・海辺のまちづくり塾・副理事長
高橋 博子	館山商工会議所・女性会総務委員
柳田 公市	NPO法人 ナレッジネットワーク・理事長
山本 佳幸	館山商工会議所・専務理事
和田 秀夫	館山信用金庫・専務理事



【モデル事業】

年月日	モデル事業名・事業内容
平成16年 1月9日(金) ～ 1月21日(水)	館山周辺の活動団体への要望調査(アンケート調査) ・館山市等の市民活動団体の内、事業化、法人化を目指す団体の掘り起こし ・コミュニティビジネスに対する啓発、普及活動の一環 ・館山市で活動する市民活動団体41団体にアンケート票を発送
平成16年 1月27日(火) 1月28日(水) 2月4日(水) 2月11日(水) 2月18日(水)	コミュニティビジネス起業化講座(全5回) ・館山市のコミュニティビジネス活性化の一環として起業化講座を実施 ・館山市内の市民活動団体、NPOの自立支援、横のネットワークづくりを主たる目的とし、団体のコミュニティビジネス化を目指す ・対象者は、コミュニティビジネスを目指している市民・団体会員、市民ボランティア団体・会員、まちづくり活動への参画を希望する市民、商店街・農協・漁協等関係者、企業関係者
平成16年 2月7日(土) 2月8日(日) 2月21日(土) 2月22日(日) 2月29日(日)	自然体験活動ガイド養成講座(初級編:4回、実践編:1回) ・自然体験活動の指導(ガイド)における基本的な知識を得ることを目的とする。 ・自然体験のガイドの裾野の拡大、海辺の鑑定団のガイド技術のブラッシュアップを図る。 ・初級編は、自然体験活動推進協議会のリーダー養成のカリキュラムを行う。さらに、館山ならではの活動を題材とした実践編につなげていく。 ・プロのガイド(千葉自然学校)との交流促進
平成16年 1月～3月	たてやま・海辺の鑑定団支援事業 ・たてやま・海辺の鑑定団に対し、立ち上げ期に必要な必要な備品・経費に関する資金面の支援 ・イベント参加費用の支援
平成16年 3月5日(金)	館山市コミュニティビジネス交流会 ・地域内連携の促進を目的に、起業化講座及びガイド養成講座参加者CBサポート連絡会議メンバー、市内市民活動団体、市民、行政等による交流会を開催。

南部地域の基本計画（抜粋）

平成 15 年 12 月 19 日作成
平成 16 年 3 月 5 日修正

1. 南部地域の目標とテーマ

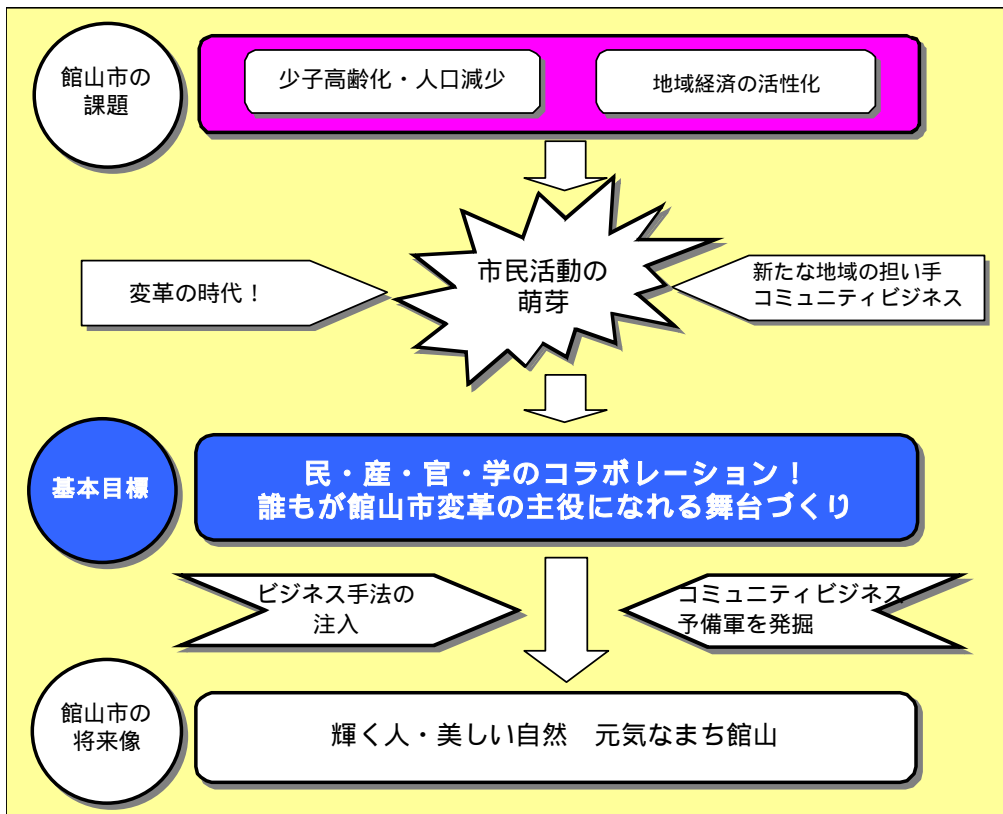
(1) 基本計画の目標

**民・産・官・学のコラボレーション！
誰もが館山市変革の主役になれる舞台づくり**

コミュニティビジネスの創出育成は、市民・企業・行政・学校等が協働して取り組むそれぞれの機関が、自分の強みを発揮し、支援する体制を構築する。

館山市の地域力の醸成と将来像の実現について、市民による館山市の変革、そのための舞台づくり（コミュニティビジネスの創出育成）を目標とする。

館山市の変革の一翼を担うコミュニティビジネスの創出・育成の土壌をつくる。「輝く人・美しい自然 元気なまち館山」という将来像を掲げ、まちづくりを進めているが、少子高齢化の進行、人口減少の中で、地域経済の活性化が課題となっている。一方、地域経済の新たな担い手としてNPO、コミュニティビジネスなどの市民活動が注目されており、館山市にも、地域課題に対し市民活動の萌芽が見られる。こうした市民活動にビジネス手法を導入しコミュニティビジネスに育て上げ、また、地域に埋もれている予備軍を発掘し、市民を巻き込んで館山市の将来像実現を図る。



(2) 南部地域のテーマ「観光交流」

コミュニティビジネスの創出・育成は
「観光交流」をテーマとする

館山市の地域課題(コミュニティビジネスの舞台)は、地域活性化(地域力の醸成)である。

館山市は、首都圏の海洋リゾート地として発展してきた。観光産業の遺伝子が脈々と流れている。また、活用できる観光資源が数多く存在する。

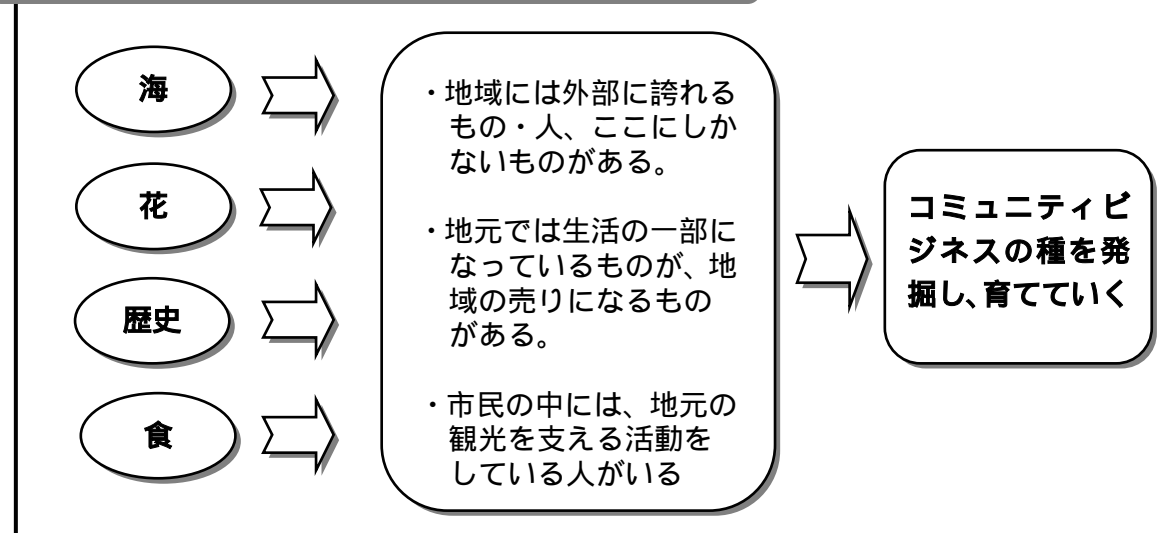
観光関連の市民活動やコミュニティビジネスの予備軍が萌芽しつつある。

館山市の再生は、観光を核として、観光と他産業のコラボレーションで地域力を創造することが有効である。

観光と商店街、観光と農業、観光と漁業との協働

館山市におけるコミュニティビジネス創出育成は、「観光交流」を切り口として、観光関連のコミュニティビジネスの創出育成プログラムを展開する。

観光交流をテーマとした創出育成プログラムを実施



観光を支えるコミュニティビジネスの創出育成

福祉・教育等の他分野へ創出育成プログラムを応用する

2. 基本計画のアクションのプログラム

コミュニティビジネスの創出育成の柱は、「人づくり」、「場づくり」、「しくみづくり」とする。

(1) コミュニティビジネス創出育成のための「人づくり」プログラム

コミュニティビジネス創出育成のための「ひとづくり」

- (1) コミュニティビジネスの啓発普及（既存団体の育成と予備軍の発掘）
 - ・ コミュニティビジネス普及啓発のためのセミナーの開催
 - ・ コミュニティビジネス起業化講座の開催
 - ・ コミュニティビジネス起業相談会・経営相談会の開催（アドバイザーとの連携）
 - ・ 先進事例・情報収集・蓄積
- (2) コミュニティビジネスの認知度の向上（既存団体の育成と予備軍の発掘）
 - ・ 地域のコミュニティビジネスの活動成果発表会
 - ・ 行政広報誌でのコミュニティビジネス活動成果報告
 - ・ パブリシティ活用によるコミュニティビジネスの認知度の向上
 - ・ 市民向けセミナー・シンポジウムの開催
- (3) コミュニティビジネスの普及啓発や経営支援を行う専門人材づくり
 - ・ コミュニティビジネス・コーディネーターの創出
 - ・ 地域のコミュニティビジネスのキーパーソン(まとめ役)の発掘
 - ・ 人材バンク
- (4) 仲間づくりの支援
 - ・ ホームページの開設
 - ・ コミュニティビジネスのメーリングリストの開設
 - ・ 異分野のNPOの交流・ネットワーク化

(2) コミュニティビジネス創出育成のための「場づくり」プログラム

コミュニティビジネス創出育成のための「場づくり」

- (1) 中間支援組織（コミュニティビジネスの止まり木）づくり
 - ・コミュニティビジネスの相談に乗り、情報発信を助け、外部経営資源とマッチングするなど、地域におけるコミュニティビジネス創出育成の環境整備
 - ・コミュニティビジネス・ワークショップの設立（意見交換の場）
- (2) コミュニティビジネスの活動の場づくり
 - ・公共施設、商店街空き店舗とのマッチング
 - ・共同オフィス、事務機能の向上
- (3) 地域課題の共有と地域資源の活用（領域づくり・資源づくり）
 - ・地域課題に対するアンケート
 - ・行政、商工団体、消費者団体との意見交換
 - ・地域資源に関するデータベースの構築
 - ・地域資源の活用方法の検討

(3) コミュニティビジネス創出育成のための「しくみづくり」

コミュニティビジネス創出育成のための「しくみづくり」

- (1) 館山地域コミュニティビジネス推進協議会の創設（民・産・官協働のプラットフォームづくり）
 - ・コミュニティビジネス・ワークショップの設立（再掲）
コミュニティビジネス実施者や支援機関等による地域ネットワークづくり
 - ・広域的プラットフォームとの連携による情報交流
 - ・メルマガ配信による情報提供
 - ・コミュニティビジネス活動団体のデータベースの構築
 - ・コミュニティビジネス活動団体の交流会
- (2) 行政との協働
 - ・協働のルールづくり
 - ・館山市のホームページ上にご意見機能の付加
 - ・地方自治体内部でのコミュニティビジネスの啓発
 - ・地方自治体からの業務委託
 - ・地方自治体にコミュニティビジネス担当部署（窓口）の設置
 - ・NPO等支援制度情報の提供
- (3) 資金支援
 - ・助成金、融資獲得支援
 - ・コミュニティビジネス立ち上げ時の資金確保の支援
 - ・金融機関との連携による新しい資金調達手法の検討

2 - 4

平成 15 年度に南部地域で実施した事業

平成 15 年度は館山市でコミュニティビジネスの創出・育成を促進するため、観光交流をテーマとし、「横の連携モデル」と「特定コミュニティビジネス団体支援モデル」を実施した。

以下、この 2 つのモデルを中心に説明する。

1. 横の連携モデル

- ・行政、商工会議所、地元金融機関、マスコミ、地元商店会等からなるサポート連絡会議で、支援団体のコミュニティビジネスに対するコンセンサスは得られた。
- ・地域でコミュニティビジネスを創出育成する次のステップでは、既存コミュニティビジネスの発掘とコミュニティビジネス予備軍の掘り起こしが必要となる。
- ・そこで、横の連携モデルでは、コミュニティビジネス実施者に対する情報交換の場の創出、地域へのコミュニティビジネスの普及啓発を目的とした事業を行った。
- ・具体的には、起業化講座によるコミュニティビジネス予備軍の掘り起こし、アンケートによる館山市の地域課題や市民活動団体のニーズの把握、新聞等を活用したコミュニティビジネスの普及活動、さらに講座等のフォローとして、コミュニティビジネス予備軍同士、または予備軍とコミュニティビジネス支援団体との交流・連携を促進する事業を展開した。
- ・横の連携モデルとして実施した事業

- (1) 館山周辺の活動団体への要望調査・アンケート
- (2) 起業化講座
- (3) 房日新聞、館山市広報等のパブリシティ活用による普及啓発
- (4) 域内連携の促進（交流会）

2. 特定コミュニティビジネス支援モデル

- ・横の連携モデルでは、コミュニティビジネスを発掘・掘り起こす（創出）ための事業を展開したが、次の段階では発掘したコミュニティビジネスやコミュニティビジネス予備軍を如何に育てていくか、どのような支援策を講じるのかが求められる。
- ・そこで、特定コミュニティビジネス支援モデルでは、たてやま・海辺の鑑定団を対象として、コミュニティビジネスを育成するために有効な支援策を明らかにすることを目的として事業を行った。
- ・具体的には、起業化育成講座を通してたてやま・海辺の鑑定団メンバーに対するビジネスプラン作成指導、自然体験活動ガイド養成講座によるたてやま・海辺の鑑定団の活動

のブラッシュアップ及び人材の育成、立ち上げ期の資金提供、房日新聞などパブリシティの活用した知名度の向上などの事業を行った。

- ・特定コミュニティビジネス支援モデルとして実施した事業

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">(1)ガイド養成事業(2)立ち上げ期の活動資金提供（備品・経費）(3)パブリシティ活用等による普及啓発(4)起業化講座（講師派遣・講師謝金・会場借料）(5)域内連携の促進（交流会）(6)広域的連携の促進（関東経済局 CBNPO 室メールマガジンからの情報受発信、広域関東圏コミュニティビジネス推進協議会への加入 |
|--|

は「横の連携モデル」との共有施策

特定コミュニティビジネス支援モデルの対象として

「たてやま・海辺の鑑定団」を選定した理由

- ・館山市コミュニティビジネス創出育成基本計画では、「館山市におけるコミュニティビジネス創出育成は、観光交流を切り口として、観光関連のコミュニティビジネスの創出育成プログラムを展開する」とした。
- ・たてやま・海辺の鑑定団は、館山市の恵まれた自然環境や歴史・文化を守り、「海辺の自然体験」を提供して、自然環境や生態系を考えるきっかけを与え、地域振興に寄与することを目的とした、NPO法人申請中の団体である。
- ・たてやま・海辺の鑑定団は、館山市の観光交流を担う可能性が高いコミュニティビジネスといえる。

3. その他

(1) 企業との連携

- ・関東経済産業局のコミュニティビジネス・NPO活動推進室がコーディネートして、東京の旅行会社（有）ちいろば企画（転地療法などの健康旅行から地域密着、シニア旅行の企画提案をする企業）を館山市に紹介している。

(2) コンセンサスの形成、地元行政の支援強化

- ・関東経済産業局総務企画部長が、館山市長、助役、企画部長を訪問し、館山市におけるコミュニティビジネス創出推進に向けた支援策等について意見交換を行った。

2 - 5 横の連携モデルの概要

1. 周辺地域の活動団体への要望調査

(1) 目的

- ・館山市等で市民活動を行っている団体に対して、事業化、法人化を目指す団体を掘り起こすことを目的に実施。コミュニティビジネスに対する啓発、普及活動の一環。

(2) 調査対象団体

- ・館山市の市民活動団体 41 団体に対して、アンケート票郵送・回収による調査を実施。

	名 称	主な活動分野	区 分
1	たんぼぼの会	保健、医療又は福祉の増進	NPO
2	なの花会	保健、医療又は福祉の増進	NPO
3	絃・竹・踊 ミューズ安房	文化、芸術、スポーツの振興	NPO
4	南房総精神障害者の生活を支える会	保健、医療又は福祉の増進	NPO
5	結いの会	保健、医療又は福祉の増進	NPO
6	南房総IT推進協議会	まちづくりの推進	NPO
7	たてやま・海辺のまちづくり塾	まちづくりの推進	NPO
8	館山外洋ヨットクラブ	文化、芸術、スポーツの振興	NPO
9	館山ウミホタル観察倶楽部	自然体験	市民活動団体
10	たてやま・海辺の鑑定団	自然体験	市民活動団体
11	貝殻伝説工房	自然体験	市民活動団体
12	ホモ デルフィナス	自然体験	市民活動団体
13	館山太極道交會	社会教育の推進	市民活動団体
14	コスモス会	社会教育の推進	市民活動団体
15	北条第二茶道会	社会教育の推進	市民活動団体
16	北条茶道	社会教育の推進	市民活動団体
17	館山市手話サークル	社会教育の推進	市民活動団体
18	北条舞踊	社会教育の推進	市民活動団体
19	七宝焼 なの花	社会教育の推進	市民活動団体
20	館山子ども文化研究会	社会教育の推進 他	市民活動団体
21	紙粘土 ドール	社会教育の推進	市民活動団体
22	北条囲碁同好会	社会教育の推進	市民活動団体
23	館山国際交流協会	国際協力	市民活動団体
24	安房の海を守り育む会	環境の保全	市民活動団体
25	館山音楽鑑賞協会	文化、芸術、スポーツの振興	市民活動団体
26	館山市文化団体連絡協議会	文化、芸術、スポーツの振興	市民活動団体
27	館山市文化財保護協会	文化、芸術、スポーツの振興	市民活動団体
28	あわ夢まつり実行委員会	子どもの健全育成	市民活動団体
29	きらきら編集局	子どもの健全育成	市民活動団体
30	八幡祭礼マップ作成委員会	文化、芸術、スポーツの振興	市民活動団体
31	しろうと百姓の会	経済活動の活性化	市民活動団体
32	那古史編さん委員会	文化、芸術、スポーツの振興	市民活動団体
33	パネ研あわ	子どもの健全育成	市民活動団体
34	真倉あゆみ会	保健、医療又は福祉の増進	市民活動団体
35	ひよこの会	子どもの健全育成	市民活動団体
36	給食ボランティア	保健、医療又は福祉の増進	ボランティア団体
37	カーボランティア	保健、医療又は福祉の増進	ボランティア団体
38	麦の会	保健、医療又は福祉の増進	ボランティア団体
39	湊川の会	保健、医療又は福祉の増進	ボランティア団体
40	おもちゃ図書館(修理)	子どもの健全育成	ボランティア団体
41	お話し会	子どもの健全育成	ボランティア団体

(3) 実施期間

- ・平成 16 年 1 月 9 日(金)～平成 16 年 1 月 21 日(水)

(4) 回収率等

- ・有効回答数：11 件 ・回収率：26.8%

(5) 回答の概要

- ・サービススタッフの不足、人材の育成に悩みを持つ
- ・資金的な支援策に期待
- ・ビジネス化を望まない。現状の分野、体制を維持する
- ・半数はコミュニティビジネスを理解しており、7割以上が関心を持っている

現状の活動、運営上の主な課題について（複数回答）

1. サービス提供スタッフの不足	5	(45%)
2. 事務局スタッフの不足	2	(18%)
3. 安定収入の不足	2	(18%)
4. 広報・PRの不足	2	(18%)
5. 事務局など活動拠点の不足	1	(9%)
6. 組織のマネジメント能力の不足	1	(9%)
7. 人材の育成	4	(36%)
8. 事業に役立つ情報の不足	2	(18%)
9. 相談相手の不足	0	(0%)
10. その他の課題（自立：2 人材の高齢化：2）	4	(36%)
11. 特に課題はない	0	(0%)

期待する支援策について

1. 経営面に関する相談窓口の設置	0	(0%)
2. コミュニティビジネス事業者や関係機関のネットワーク化	0	(0%)
3. 人材の確保、育成の講座等の開催による支援	3	(27%)
4. 活動場所・スペースの確保支援	1	(9%)
5. コミュニティビジネスのセミナー等の開催による普及支援	0	(0%)
6. 行政の業務のアウトソーシング	1	(9%)
7. 融資・助成金等の資金的支援	7	(64%)
8. その他（館山栈橋の利用）	1	(9%)

今後の事業活動についての考え

1. 既存事業の規模の拡大により、ビジネス化を検討する	0	(0%)
2. 既存事業の周辺分野に参入し、ビジネス化を検討する	1	(9%)
3. 事業分野は現状と変わらないが、ビジネス化を検討する	0	(0%)
4. 事業分野、体制ともに現状通り（ビジネス化は検討しない）	9	(82%)
5. その他（ ）	2	(18%)

コミュニティビジネスの認知度について

1. 知っている（内容も理解している）	5	(45%)
2. 言葉は聞いたことがあるが内容はよく知らない	4	(36%)
3. 言葉も聞いたことがない	3	(27%)

コミュニティビジネスへの関心度について

1. 関心がある	8	(73%)
2. 関心はない	0	(0%)
3. わからない	3	(27%)

（「 」は、最多回答）

2. コミュニティビジネス起業化講座

(1) 講座の目的

館山市におけるコミュニティビジネス活性化の一環として、「館山市コミュニティビジネス起業化講座」を実施した。

市内の市民活動団体、NPOの自立支援、横のネットワークづくりを主たる目的とし、団体のコミュニティビジネス化を目指す。

(2) 講師

永沢 映 氏 (NPO法人 コミュニティビジネスサポートセンター 事務局長)

(3) 講座カリキュラム

回数	月	日	曜日	時間	講座内容	会場
第1回	1	27	火	13:00～ 17:00	コミュニティビジネスの現状と展望 ・CBの全体像や展望に関する総論 ・また事例、各地の動向などを通じて、具体的にコミュニティビジネスへの理解を進める	館山商工会議所 2階大会議室
第2回	1	28	水	13:00～ 17:00	経営ノウハウについて ・個人事業、会社、NPO、組合など、それぞれの利点と欠点を含め、どのようなときにどのような法人形態がマッチするのかを検討する。 ・また税金、手続など、それぞれの形態における細かい概要と利点、欠点を整理する。	館山商工会議所 2階大会議室
第3回	2	4	水	13:00～ 17:00	館山市におけるコミュニティビジネスへの展望 ・現在の館山市の状況(人口、施策、交通基盤、産業など)を再検証し、館山市への認識を深める。 ・またコミュニティビジネスの推進を通じて、市民団体、自治体、金融機関、商工会などの交流、情報交換などを実施。	館山商工会議所 2階大会議室
第4回	2	11	水 (祝)	13:00～ 17:00	ビジネスモデルの検証(海辺の鑑定団) ・館山市内でコミュニティビジネスを実施するには、具体的なイメージ作りが必要となる。「海辺の鑑定団」の事業フローチャートを題材に、そのビジネスモデルを通じた 設立準備、設立手続、設立後の展開などを検討する。	館山商工会議所 2階大会議室
第5回	2	18	水	13:00～ 17:00	ビジネスコンセプトの作成 ・事業計画書の前段となる、個々の市民活動団体のビジネス的な活動のコンセプトを作成する。 ・団体が自立し、収益をあげられる企画を立て、専門的にアドバイスを実施する。	館山商工会議所 2階大会議室

(4) 講座受講者

コミュニティビジネスを目指している市民・団体会員、市民ボランティア団体・会員、まちづくり活動への参画を希望する市民 等

	氏名	所属等
1	清野 守正	NPO法人たてやま・海辺のまちづくり塾
2	山崎 吉英	自然農園の会
3	宮本 道子	
4	蜂谷 吉男	
5	吉田 喜昭	館山中央青果地方卸売市場(株)
6	相原 栄	
7	盛島 岳	館山商工会議所
8	工藤 一郎	館山市観光協会
9	市川 久夫	館山商工会議所青年部
10	高橋 敬久	館山商工会議所
11	中屋 勝義	
12	秋山 修一	
13	早船 亮一	NPO法人なのはな会
14	秋山 貴	
15	中沼 良二	
16	白幡 進	健人館
17	白幡 和世	健人館
18	竹内 聖一	たてやま・海辺の鑑定団
19	金丸 謙一	
20	春名 重義	館山市おもちゃ図書館附属「おもちゃ病院」
21	高橋 聖	
22	久保 誠	たてやま・海辺の鑑定団
23	石橋 進一	たてやま・海辺の鑑定団
24	川名 雅俊	博道会(館山病院)
25	高山 芳輝	
26	高橋 華美子	
27	根本 進一	

〔起業化講座の様子〕



(5) 館山市コミュニティビジネス起業化講座・事前アンケート(受講者の概要)

<p>関心のある分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり、環境、歴史文化が上位。 ・その他の回答(特産品の製造販売、地域資源、農業) 	
<p>起業意識について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある : 11名(64.7%) ・ある程度ある : 4名(23.5%) ・あまり関心がない: 2名(11.8%) ・まったく関心がない: 0名(0.0%) 	
<p>起業の時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに : 4名(23.5%) ・近い将来: 4名(23.5%) ・未定: 5名(29.4%) ・意思なし: 0名(0.0%) ・不明 : 4名(23.5%) 	
<p>パソコン・ITについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かなり使用する : 9名(52.9%) ・簡単な操作はできる : 6名(35.3%) ・あまり使用できない: 1名(5.9%) ・まったく使用できない: 1名(5.9%) 	
<p>コミュニティビジネスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳しく知っている: 0名(0.0%) ・ある程度知っている: 10名(58.8%) ・あまり知らない : 5名(29.4%) ・まったく知らない : 2名(11.8%) 	
<p>現在有している能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人脈・協力者 : 6名(35.3%) ・イベント企画: 5名(29.4%) ・事務所 : 4名(23.5%) ・IT : 4名(23.5%) ・経営、経営管理: 4名(23.5%) ・その他の項目: 2名(食品・製造、やる気) 	
<p>起業する場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館山市内: 14名(73.7%) ・その他 : 4名(21.1%): 東京・横浜、千葉県市原市、千葉県丸山町、千葉県富浦町 	
<p>性別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性: 14名(82.4%) ・女性: 3名(17.6%) 	
<p>年齢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・60歳代: 6名(35.3%) ・50歳代: 5名(29.4%) ・40歳代: 3名(17.6%) ・40歳未満: 2名(11.8%) ・70歳以上: 1名(5.9%) 	
<p>質問その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとつひとつの事柄をどこに相談してよいかわからない。 ・特区の申請手続き ・税金対策や経理について ・代表者との関係。共同経営の場合は、難しいのでうまくいく方法 	

(6) 成果物

起業化講座では、事業計画書の前段階となる活動のビジネスコンセプトの作成をゴールとした。以下は、受講生が作成したビジネスコンセプトである(一部)。

主体団体	団体名：安房の海を守り育む会
	活動分野：環境保全(海と川の水質浄化)
	活動地域：館山市内の河川(宇田川とどんどん川)
活動のコンセプト (活動のポイント、売り)	あさりの取れる館山湾にしよう。 子孫に誇れる海を残そう。
主な活動内容 (具体的に)	毎週日曜日 600k~1t EM菌入りの発酵液を放流している。 (平成13年6月より活動)ウイークディは発酵液づくりをしている。
バランス	満足感、地域貢献 9 : 1 事業(ビジネス)
協力者、ネットワーク (誰とどのような関係で行うのか)	地域の理解者及び賛同者28名 「房の海」の売り上げ(年50万)の1部と補助(市・他団体補助)(年4万) 各種NPOや市民ボランティアとのネットワーク
活動の成果 (この活動を通じてどのような地域課題を解決できるか)	地域の自然や環境に対して考えてもらう。家庭の雑排水への注意の再確認。 ヘドロの量、におい等に良い変化あり。 理解者・協力者が少しずつ増えつつあり。 問題点 材料費80~90万円+(水・電気代)採算が問題 行政からの委託事業(環境学習講師派遣・海岸、河川清掃、管理) EM1次活性液の販売

主体団体	団体名：夕食の宅配サービス
	活動分野：飲食店
	活動地域：市内(車で10分程度)
活動のコンセプト (活動のポイント、売り)	・国内産(なるべく市内産)で安心な野菜を利用してバランスの良い夕食の提供 ・好き嫌いを考慮した献立の採用 ・科学調味料に頼らない味付
主な活動内容 (具体的に)	・老人、独身男性、料理の苦手な方に栄養のバランスの良い、安全な食事の提供
バランス	満足感、地域貢献 3 : 7 事業(ビジネス)
協力者、ネットワーク (誰とどのような関係で行うのか)	一人で安全な野菜を提供してくれる生産者を探して協力を得たい。
活動の成果 (この活動を通じてどのような地域課題を解決できるか)	高齢化が進む地域で、夕食を宅配することで、コミュニケーション作り。

主体団体	団体名：たてやま体験農業学園
	活動分野：農業・観光・教育・福祉他
	活動地域：館山市
活動のコンセプト (活動のポイント、売り)	<p>・農業体験を通してより多くの人に農業に親しんでいただく、そして、明日の農業を担う人材を育成する。</p> <p>・特色のある6つの農園コース(市民観光、未来、チャレンジ、世界研究)を設置</p> <p>・学園祭を一大イベント行事として、年1回実施する。</p> <p>・継続性のある地道な運営をし、各年度黒字経営にする。</p>
主な活動内容 (具体的に)	<p>・市民農園コース(一般市民対象)休耕農地を利用し、農業に興味のある一般市民に農業に親しんでもらう場を提供する。</p> <p>・観光農園コース(観光客対象)体験農業を館山の思い出のページに。</p> <p>・未来農園コース(園児小中高学年対象)自然のめぐみに感動してもらう。</p> <p>・チャレンジ農園コース(障害者対象)障害者も農園経営をして生活自立する。</p> <p>・世界農園コース(ボランティア対象)世界の食糧難の国々へ支援、世界の特産物農園</p> <p>・研究農園コース(専門家集団対象)健康農産物及び特産農産物の開発</p>
バランス	満足感、地域貢献 80 : 20 事業(ビジネス)
協力者、ネットワーク (誰とどのような関係で行うのか)	農業をしたい人、農業をしている人、農業関連の仕事をしている人、市民農家、JA、行政、教育機関、農業関連業者(青果卸売市場、農機具や、種、服飾店)観光協会、医療福祉機関、商工会議所、金融機関、房日、ボランティア団体 他
活動の成果 (この活動を通じてどのような地域課題を解決できるか)	<p>・休耕農地の活用</p> <p>・後継者難の農家に光</p> <p>・雇用の創出(障害者、退職者 etc)</p> <p>・観光客、住民の増加</p> <p>・地域の活性化 他</p>

主体団体	団体名：NPO 法人南房総、休耕地活用土づくりの会(仮称)
	活動分野：休耕地の活用と、生ゴミのリサイクル
	活動地域：南房総
活動のコンセプト (活動のポイント、売り)	地域の中に潜在する無駄と機会損失をなくし、無駄のない社会(リサイクル)と安全な食材と町おこしを同時に実現する。地産地消にもつながる。
主な活動内容 (具体的に)	<p>・休耕地の登録制による貸し出し業をインターネット等を通して広く募集し、就農したい人と、耕地を貸してもよい人とをマッチさせる。</p> <p>・旅館、ホテル等から出る大量の生ゴミを肥料として再利用する。</p> <p>・次段階として家庭のゴミも視野に入れる。</p>
バランス	満足感、地域貢献 5 : 5 事業(ビジネス)
協力者、ネットワーク (誰とどのような関係で行うのか)	<p>・行政による広報活動や啓蒙活動</p> <p>・旅館、ホテル等との協力</p> <p>・住民の意識向上</p> <p>・農家の人の農業指導</p> <p>・ゴミ業者とのタイアップ</p>
活動の成果 (この活動を通じてどのような地域課題を解決できるか)	<p>・食料自給率のアップ</p> <p>・休耕地を少なくする事で景観の向上</p> <p>・リサイクル実施により無駄をなくし地域のイメージアップ定住者がふえる。</p>

主体団体	団体名：南房総パーマカルチャーネットワーク
	活動分野：環境(農業)を中心とした啓蒙活動
	活動地域：南房総を中心として首都圏全体
活動のコンセプト (活動のポイント、売り)	オーストラリアの農業家ビルモリソンの提唱するパーマカルチャー(パーマナント 永続的なアグリカルチャー 農業を合わせた造語)の倫理、手法にのっとり、永続可能な循環型農業中心の生活方法を実践し、そのネットワークを広げることで環境を考え、生態系にローインパクトな生き方(ライフスタイル)を広げていく。
主な活動内容 (具体的に)	それぞれの自宅の庭や空いている土地に、パーマカルチャーの原則に合わせ、農業(菜園、果樹園等)を振興するメンバーを増やす。個々のケースに合わせた手法をメンバーで話し合い、メンバーの畑で手伝いをして、畑を増やしていく。更にコンポストトイレの普及や、メンバー同志の農産物の交換システムも行う。
バランス	満足感、地域貢献 7 : 3 事業(ビジネス)
協力者、ネットワーク (誰とどのような関係で行うのか)	メンバーのネットワークはもとより、先人達の手法を勉強するため、交流会、研修会を行う。また、無農薬農業を実践している地域の方達との交流を通じて地域に根付いている手法も学ぶ、また建築家などとも連携し、自然を利用した建造物の研究も行っていく。自給自足して更にあまった農産物を直売もしていく。
活動の成果 (この活動を通じてどのような地域課題を解決できるか)	地球規模で破壊が進んでいる環境問題の解決に向け、個々人や団体が永続可能な循環社会を(“食べられる森”を造る)造ることで、地域から地球生態系を守る運動を広げたい。

主体団体	団体名：NPO 法人貸畑支援センター
	活動分野：農業(家庭農園)を軸に町づくり
	活動地域：館山周辺
活動のコンセプト (活動のポイント、売り)	1.目標 “住みたい町、住んでよかった町” づくり 1.そのためのコンセプト 夢・・・生きがい 安心・・・くらし、健康責任(自己) 1.自然環境に恵まれた暮らしをめざす 1.市民全戸が家庭農園をする運動を起す
主な活動内容 (具体的に)	1.その運動の中心として NPO 法人 “貸畑支援センター” を設立 1.貸農地の確保と借農地人(市民、都会者)の確保 1.上記の組織化と商品化 1.関連事業の経営：市民農園、農園療法施設、農業研修センター(都会者向) 1.市場の開設 余った農産物の販売(地域マネーも考慮)
バランス	満足感、地域貢献 7 : 3 事業(ビジネス)
協力者、ネットワーク (誰とどのような関係で行うのか)	1.行政に対しては、特別経済区に指定してもらう 1.貸農地の確保に対しては、農家組合長(区)の協力を得る。 1.借農地人の確保については、市の広報誌等を利用、都会者に対しては、インターネット・ホームページを利用
活動の成果 (この活動を通じてどのような地域課題を解決できるか)	1.市民は、無農薬野菜を得、健康に役立つ。 1.農業者は、生産だけでなく、農業指導・農地管理等の収入の道が開ける。 1.行政は、自然を生かした循環式町づくりができる。 1.NPO 貸畑支援センターは、農地の貸借手数とその他の事業が可能となる。

主体団体	団体名：補陀洛の里を作る会 活動分野：高齢者が生涯安心して暮らせる街づくり 活動地域：那古船形地域
活動のコンセプト (活動のポイント、 売り)	<p>高齢者、障害者が「働き・遊び・学び・癒す」など自立して生涯安心して暮らせる街は全ての年代に魅力的な街である。基本デザインは、歩行移動可能な範囲で、ユニバーサルデザインの町並みを計画、立案し、支援を目的としたビジネスモデルを実現する。</p> <p>那古観音の門前町の賑わいを復活させ、住居人口の3割を占める高齢者が、お洒落して出かけ、仲間と会い、引きこもりを無くす、そんな楽しい街で地元の人が楽しく暮らすことが、リゾートとしての条件である。楽しい街とは、旨い食べ物と安心して歩ける道路、楽しい界隈が絶対条件であり、統一コンセプトに基づいた計画が必要になる。この作業は、困難だが解決しないと、ショッピングセンターでしか実現できなくなる。</p> <p>既存の商店街のように個々の商店が勝手な思い込みで展開すると、街は衰退の道を歩いてしまう。テーマを持った街でなければ、地域ブランド競争にも負けてしまう。</p> <p>具体的には、那古船形駅から那古観音までの肩を並べて歩ける歩道があり、歩道を挟み、高齢者が楽しめる店、施設が軒を並べ、寄り道が楽しく路地裏には、珍しい発見の場所があり、小さな集会場では、いろいろな講座、集会、展示発表会など行われ、会合の後のお喋りの場も随所に点在する。趣味の作品を売るショッピングモールやイベント広場があり、ちょっと足を伸ばすとウォーターフロントの広場に通じる。夕方ともなると、地元民、観光客がサンセットの中で散策し、夜のとばりが降りる頃、港はハーバーライトに照らされたヨット、クルーザーが浮かび、レストランではディナーが始まる。もちろんメニューは高齢者が楽しめる料理と量、そして食材は地元で自給自足の出来る物である。寺では縁日の賑わいや楽しい説法、講話が行われ参拝客で人波が絶えない。安房観音巡礼1番札所であり、札所巡りによる自然や歴史をPRするには、館山インターと共に観光のインフォメーションセンターとしても、最適の位置にある。</p>
主な活動内容 (具体的に)	<p><u>地元コミュニティへの協議と賛同を得ること</u></p> <ul style="list-style-type: none"> *一番難しい課題であるが、これを解決しないと事業展開できない基本活動である。 *最初のアプローチは、観光によって影響を受けそうな、地元コミュニティーグループのリーダー達と個人的にコンタクトして提案の場を与えてもらう。 *関心の有無に関わらず、ニュースレターなどで関わり会を、持ち続け経過を常に知らせる努力を必要とする。 *コミュニティ・ネットワークの構築、ここまでくれば活動の糸口が見つかる段階ではないか。 *地元自治体との意見交換と情報収集の依頼。 規制、土地利用、基盤整備、財政、教育、福祉等の機関から情報取得及び取捨選択 *地元住民への地元資産、メリットのPR活動 <p><u>コンセプトに基づいたCBのゾーニングの決定と創業支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> *ニーズの分類 <ul style="list-style-type: none"> 「住まう」住まいを中心に、バリアフリー、グループ&リビングホームパブリック・スペースとの関連を考える。 「暮らし」介護、一人暮らし、同居や日々の生活を、個人の視点で対策を模索する。 「経済」高齢者、女性の社会進出を活用するシステムづくり。 観光、癒しのリゾートの開発と運営 「医療」予防医学、メンタルケアを重視した医療と、介護、健康維持のための安心ネットワークが必要。 「娯楽」生き甲斐づくりの基礎になる。地域との関わりや趣味の交流社交的な場をつくり、楽しさとゆとりを発信する。
バランス	満足感、地域貢献 70 : 30 事業(ビジネス)
協力者、ネットワーク	これからの課題
活動の成果	地区住民が誇りをもって、世界に自慢できる元気いっぱいの街

主体団体	団体名：“メルカド館山”商業協同組合
	活動分野：地域密着によるまちづくり
	活動地域：銀座通りを含む中心市街地
活動のコンセプト (活動のポイント、売り)	<ul style="list-style-type: none"> ・地元中小商業が主体となって商業核を開発し、商店街活性化に寄与する。 ・地域住民や観光客など多様な人々が集い、楽しめる商業集積をつくり、空き店舗が増加する商店街の活性化の起爆剤とする。 ・商店街の統一性を重視し、南欧風のまちづくりを目指す。
主な活動内容 (具体的に)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光土産品の買い物、飲食、休憩の場の提供 ・新しい起業家に出店のチャンスを提供する場 ・やる気のある人が集まって、商店街活性化を先導する場 ・地域住民の日常の買い物の場 ・地域住民のコミュニティの場 ・NPO サポートセンター ・市役所の出先機関
バランス	満足感、地域貢献 10～20 : 80～90 事業(ビジネス)
協力者、ネットワーク (誰とどのような関係で行うのか)	<ul style="list-style-type: none"> ・地元中小商業者が主体となって、商業協同組合を設立し、デベロッパーとして、小さな投資で商業核開発ができるような仕組みづくりをし、運営に当たる。 ・地権者(事業用定期借地権 20 年で借受) ・金融機関(融資) ・地元中小商業者(出資・テナント出店・イベント参加)
活動の成果 (この活動を通じてどのような地域課題を解決できるか)	<ul style="list-style-type: none"> ・個店の集積による相乗効果を発揮し、商店街区内への顧客の吸引 ・買い物客以外にも地域住民や観光客等の幅広い人々が楽しみ、くつろげるコミュニティ空間の創出 ・駅周辺には観光案を受け入れる施設がないので、観光客に商店街への観光客吸引のきっかけとなる。 <p>投下資本:120,135 千円</p>

主体団体	団体名：南房総移住サポートクラブ
	活動分野：首都圏都市部住人の南房総への移住を促進する事業
	活動地域：南房総全域(但し、当面は館山市周辺)
活動のコンセプト (活動のポイント、売り)	都会人の望みである「温暖な地域でゆとりある暮らしがしたい」「しかし、具体的な行動をするための手掛りがない」「いざ新しい土地で暮らすとなると生活面等で色々不安が多い」等々の課題を解決するため、移住経験者を中心に、ネットワークをつくり、潜在的な移住希望者を掘り出し、南房総の魅力を伝え、先輩移住者の暮らし振りを紹介し、実際に移住するまでの各種サポートを行う。
主な活動内容 (具体的に)	<ol style="list-style-type: none"> 1.南房総の良いところ紹介運動・・・HP の活用、東京のふるさと情報館へ案内パンフレットを置く。ふるさと物産展等での PR 等 2.移住者の紹介ツアー(移住した人の暮らし振り紹介)日帰り、有料 3.田舎暮らし体験ツアー(町暮らし、海辺暮らし、田園暮らし)1泊、有料 4.不動産物件等の紹介(複数の不動産業者から情報提供を受け紹介)成約時 1%程度の成功報酬を得る。 5.移住者へのサポート(病院、学校、博物館、公民館、町内会情報、買い物、食事の店情報等) 6.移住者交流会等の開催(悩みを聞いてもらう、新規移住者の発掘)

バランス	満足感、地域貢献 70 : 3.0 事業（ビジネス）
協力者、ネットワーク （誰とどのような関係で行うのか）	<p>1.移住者仲間を募り、志のある有志で団体を結成する。 房日新聞や広報等の活用、イベントを開催、生活振りを紹介可能な協力メンバーを募る。</p> <p>2.南房総の魅力を紹介出来る各種団体との連携(海辺の鑑定団など)</p> <p>3.不動産業者との連携(多くの種類の物件を揃えているところを中心に)</p> <p>4.行政、観光協会、マスコミ等との連携</p>
活動の成果 （この活動を通じてどのような地域課題を解決できるか）	<p>館山市の人口は、今後、急激に減少する事が予想されている。（2030年には3.4万人・・・日経ビジネス EXPRESS、2030年の日本）</p> <p>この減少案を少しでも緩め、あわよくば増加に転ずる事が出来れば、大成功と考える。（地域振興につながる）</p>

(7) 館山市コミュニティビジネス起業化講座受講生の声(アンケートの集計)

起業するために、ご自分に不足していると感じているもの(複数回答)

1. 資金	: 9名	2. 起業の場所	: 2名
3. 協力者	: 6名	4. 経営能力	: 7名
5. IT技術	: 2名	6. ネットワーク	: 7名
7. 情報	: 5名	8. その他(数字管理)	: 1名

起業化講座の受講を活かす為に、次に実施してほしい事業(複数回答)

1. ビジネスプラン作成に的を絞った講座	: 3名	2. 各地の成功事例の勉強会	: 4名
3. 人脈づくり(仲間づくり)の場	: 6名	4. 相談、アドバイスの場	: 3名
5. サポート機関の設置	: 4名	6. 受講者のネットワーク	: 3名
7. 起業場所の設置	: 1名	8. その他	: 0名

受講者を核にしたコミュニティビジネス支援の団体への参加する意思

1. ある	: 12名	2. ない	: 0名	3. わからない	: 2名
-------	-------	-------	------	----------	------

コミュニティビジネスの支援組織に期待するもの

<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな情報をお願い致します。 ・どんな企画(ビジネス内容)が進行しているのか。また、どんな人的(協力者等)要請があるのかなどの情報を、今講習会受講者に何らかの形で(メーリング)流していただければ有難い。 ・相談窓口を作って欲しい。 ・全国のコミュニティビジネスの情報がほしい。 ・問題点について、助言して欲しい。 ・各分野(農業等)のアドバイザー(専門家グループ紹介、人材バンク等)を用意できないか。 ・農園 ・ネットワークを広げてもらいたい。 ・気軽に相談できる組織 ・いろいろな「まちづくり」が進んでいるということがわかりました。広報誌(だんだん館山等)で定期的にアナウンスしたらと思います。
--

起業化講座についての意見

<ul style="list-style-type: none"> ・起業環境作りのモデルプランを示してほしい。その中で個人的に事業支援のアドバイスを頂ける機関がほしい。 ・大変参考になりました。 ・大変勉強になりました。 ・地域を見直す視点が、できたように思います。 ・良い情報をいろいろいただきました。 ・起業ということが身近になった気がします。何とか一歩でも前に進んでみたい。 ・大変勉強になりました。分野は解りませんが、又、企画して頂きたいと思います。 ・志のある人たちに出会えたこと。 ・これからの未来を考える機会を与えてくれて、感謝しています。 ・具体例(成功例も失敗例も含めて)の説明がもっと聞きたかった。 ・仲間作りの、仲間集めの実例を知りたかった。 ・続けてほしい。 ・自然と公害をよい方に持っていく住みよい町づくり ・独立した事業として、経営できるよう講義してもらいたい。 ・地域の問題点は色々な方が話をし、知恵を出し合う事で、少しでも前に進んでいくと感じた。 ・人数的にはちょうど良い数だと思います。

(8) 起業化講座参加者のフォロー

起業化講座では、ビジネスプラン作成の前段階であるビジネスコンセプトの作成までを行った。自分の思いをアウトプットとして整理した段階である。コミュニティビジネスとして事業化していくためには、思いを形にする段階、ビジネスプラン(事業計画)を作成する段階へと昇華させていく必要がある。

コミュニティビジネスに気づいた起業家講座卒業生を中心に、コミュニティビジネス事業者として一本立ちさせるためには継続的なフォローが必要となる。

館山市で行った起業化講座受講生が今後期待する支援策は、「仲間づくり(ネットワーク)」、「相談窓口・相談場所」、「成功事例勉強会」などが上げられている。

起業化講座を単発で終わらせないために、館山市では今後以下のような事業を行っていく予定である。

起業化相談対応

当面はコミュニティビジネスサポートセンターと連携する。

情報提供

館山版メールマガジン

事例提供

関東経済産業局作成の「創業マニュアル(15FY)」、「CB事例集」等の活用
希望者を募っての現地見学。

仲間づくり、ネットワーク

起業化講座参加者の連絡網作成(参加者の許可必要)
(メーリングリスト等)

活動報告会開催と予算獲得後の必要な支援策取りまとめ。

他地域(例えば、我孫子(ACOBA))との交流イベント。

事業計画作成指導

実践編としてビジネスプラン策定までの指導。

3. コミュニティビジネス交流会

(1) 交流会の目的

- ・館山市の地域資源を活用し、地域の様々な課題を解決するコミュニティビジネス活性化の一環として、「館山市コミュニティビジネス交流会」を開催した。
- ・館山市内の市民活動団体、NPOの自立支援、横のネットワークづくりを主たる目的とし、支援団体等との交流及び参加者同士の情報交換の場として開催した。

(2) 開催概要

開催日時：平成16年3月5日(金) 14:00~17:00

会場：館山商工会館(館山商工会議所)会議室

対象者：起業化講座、自然体験活動ガイド養成講座の参加者、市民活動団体(NPO含む)・会員、まちづくり活動への参画を希望する市民、コミュニティビジネスに関心のある市民、商店街・農協・漁協等関係者、企業関係者等

(3) プログラム

基調講演：「コミュニティビジネスの現状と可能性」

講師：柳田公市氏(特定非営利活動法人ナレッジネットワーク理事長)

報告1：「館山市コミュニティビジネス創出育成基本計画」について

発表者：館山市コミュニティビジネスサポート連絡会議 事務局

報告2：「館山市コミュニティビジネス創出育成プログラム」に参加して

発表者：たてやま・海辺の鑑定団

交流会：

講座の講師、サポート連絡会議のメンバー等も参加した交流会

〔交流会の様子〕



(4) 交流会参加者の声

館山市コミュニティビジネス創出育成基本計画について

- ・先進地域の事例の収集提供を是非具体的に。
- ・起業相談の実施体制の早期取組を。
- ・館山市の現状が良くまとめられている。また基本計画も実現可能と思われるので、これらを基本として、一日も早く館山の活性化を進めたい。
- ・今後ともこのような交流会を多く開いて下さい。
- ・たいへんわかりやすくまとめられている。
- ・大変立派に出来ています。あとでゆっくり見させていただきます。
- ・金額面で一考を要す。自然 無料。
山・歩く会はどこでも無料でガイド説明があり、ありがたいが、二の足踏むおそれあり。自然ガイドは市負担如何。
- ・推進協議会のイメージ図では、現実に則した支援の場にはなりづらいと思います。
行政、マスコミ、金融、商店街、観光協会、NPO、CB事業者、農協、漁協、組合等が**個人の資格**で話し合える場（メーリング等）を作り、自由な仲間作りと人材の発掘がなによりも必要。（各々の垣根を越えた、すばらしいアイデアが可能）
- ・新しい知恵を勉強できて、又楽しみが増えた。

今後、期待する交流（交流の機会）について

- ・各界の長ではなく、実際に活躍（活動）している方々が一同に会する場があれば良い。それぞれの得意分野を活用すれば大きな力となる。
- ・実際にはコミュニティビジネス立ち上げ経験者との交流。
- ・環境関係に取り組んでいる人。
- ・どなたでも……。できればコミュニティビジネスで成功した方の例を語れる人とか……。失敗例でも、その方が了解されれば……。
- ・テニスコート（館山運動公園）野球場、他市に流れるのは融通性が少ない。使用者が印を持って申し込む。他宿申込OK。
- ・特に活性化のある人との交流を願います。

今回の交流会について感じたこと

- ・定期的に行いたい。
- ・館山とIT関連のビジネスなどの講習会。
- ・少し時間が足りなかった。
- ・いろいろなジャンルの人々と話し合えて（知り合えて）良かったです。なかなか交流できない人と会えました。こういう機会をまた作って下さい。柳田さんの話が（意味の深い）とても心強く思いました。
- ・人との会話にて自分の経営センスが足りない。心のわがまが出た。
- ・みなさん館山を良くしようと言う気持ちが十分有るので、頑張ってください。

4. 横の連携モデルの効果

(1) 横の連携モデルの結果

- ・横の連携モデルでは、コミュニティビジネスの発掘、コミュニティビジネス予備軍の掘り起こしを目的として実施した。

既存の市民団体に対する要望調査（アンケート）

発送 41 団体中、回答は 11 団体（回答率 26.8%）であった。コミュニティビジネスに対する市民の理解度が低い中で実施したため回答自体が少なかった。

起業化講座

27 名の受講生を得ておこなったが、受講生は、地域に対してそれぞれの「想い」を持っている。コミュニティビジネス予備軍の掘り起こしとして、起業化講座は有効な手段である。また、外から移り住んできた方の中にもコミュニティビジネス予備軍が存在することがわかった。

交流会

講座の参加者を中心に 34 名のコミュニティビジネス予備軍の方が集まり、支援機関との交流を行った。参加者からは「定期的な開催」「普段あえない方と話ができる」等概ね好評であった。今回の交流会は、講座終了後のフォローの意味もあり、事業の継続性は保たれた。

(2) 横の連携モデルの課題

- ・アンケート調査は、コミュニティビジネスの理解がある程度進んだ段階での実施が効果があがる。市民を対象にしたシンポジウムの開催後に実施する等の工夫が必要である。
- ・起業化講座は、掘り起こし効果はある。コミュニティビジネスに目覚めた市民に対して継続的にフォローする仕掛けが必要である（受講生はそれを望んでいる）。今回は交流会を開催したが、ワンランク上の起業化講座や相談窓口の開設といった講座受講者に対するフォローは必要である。

(3) 今後の対応

- ・市民向けの「コミュニティビジネスシンポジウム」の開催など、市民にコミュニティビジネスへの理解を促すイベントを開催する。参加者に対して起業化講座等への参加を促し、講座卒業生に対して仲間作りの場、商店街との連携による活動の場の確保や地元金融機関によるコミュニティビジネス立ち上げのための融資制度といったコミュニティビジネスの創出から育成までの一貫した支援体制の構築が必要である。

2 - 6 特定コミュニティビジネス支援モデルの概要

1. 自然体験活動ガイド養成講座の概要

(1) 講座の目的

- ・自然体験活動の指導（ガイド）を行うための基本的な知識を得ることを目的とする。
- ・自然体験のガイドの裾野の拡大、「たてやま・海辺の鑑定団」メンバーのガイド技術のブラッシュアップを図る。
- ・初級編では、自然体験活動推進協議会（CONE コーン）のリーダー養成のカリキュラムを行う。さらに、館山ならではの活動を題材とした実践編につなげていく。
- ・今回のガイド養成事業への参加を契機として、コーンリーダーとして登録し活動する。他地域の活動者とのネットワークを拡大させる。
- ・プロのガイド（NPO法人千葉自然学校）との交流促進

(2) 講師

- ・土居 元 氏（NPO法人千葉自然学校）他

(3) カリキュラム

- ・全5講座（初級編4講座、実践編1講座）

回数	月	日	曜日	時間	講座内容	会場
初級編 第1回 (1日目)	2	7	土	9:00～ 17:00	自然体験活動の概要 館山をもっと知ろう ・オリエンテーション。自然体験活動の理念を学びます ・海辺の鑑定団のプログラム体験（坂田海岸） 自然の理解、自然活動の基礎技術をの学習 ・指導方法に関する基礎技術の座学 ポテンシャルリサーチについて	館山商工会館 (館山商工会議所) 1階中会議室
初級編 第1回 (2日目)	2	8	日	9:00～ 17:00	自然体験活動の概要 館山をもっと知ろう ・海辺の鑑定団のプログラム体験（房の大山戦跡街道） 自然と人、社会、文化のかかわりについて学びます。 ・安全管理に関する座学 ・KYTシートによる実習、保険について	館山商工会館 (館山商工会議所) 1階中会議室
初級編 第2回 (1日目)	2	21	土	9:00～ 17:00	自然体験活動の実際 館山ともっとかかわろう ・海辺の鑑定団のプログラム体験（沖ノ島） 自然体験活動の指導法の学習 ・プログラムづくりの基礎 自然活動のプログラムづくりの基礎、企画の立て方	館山商工会館 (館山商工会議所) 1階中会議室
初級編 第2回 (2日目)	2	22	日	9:00～ 17:00	自然体験活動の実際 館山ともっとかかわろう ・プログラムづくりの基礎、 自分達で立てた企画を実際に行う ・企画の練り直し、29日に行う企画の決定	館山商工会館 (館山商工会議所) 1階中会議室
実践編	2	29	日	9:30～ 16:30	実際にガイドをしてみる ・お客様に対して実際にガイドをおこない、プロのガイドから指導・評価をもらう。 ・お客様からのフィードバック等をもとに評価会	安房博物館

全過程参加者（希望者）には、CONEリーダーの認定資格が与えられる。

(4) 講座受講者

- ・参加者：自然体験活動に関わっているまたは関わろうとする市民等

	氏名	所属
1	松苗 禮子	南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム
2	鈴木ヨシミ	
3	春藤 敦彦	
4	小宮敬一郎	
5	島瀬のり子	たてやま・海辺の鑑定団
6	山井 廣	
7	野村 久子	NPO鴨川交流センター
8	桑原 周之	NPO鴨川交流センター
9	竹内 妙子	たてやま・海辺の鑑定団
10	久保 誠	たてやま・海辺の鑑定団
11	久保田ひろみ	たてやま・海辺の鑑定団
12	山川 弘恭	
13	大西 健介	沖ノ島サンゴを見守る会
14	小林 洋生	
15	山口 孝	NPOたてやま・海辺のまちづくり塾

(5) 成果物

- ・オリジナル自然体験アクティビティー企画 2種

沖ノ島、早春の探訪 うちあげ海藻をひろうー

- ・黒潮の影響などによる館山の暖海の海は、300種以上の海藻が生きている豊かな海である。この豊かな海を海藻を通して知り、海を大切にしたい気持ち伝えたい。
- ・海藻を拾ってもらい、その海藻を解説する。沖ノ島で取れたわかめを使った味噌汁の試飲。

カヤックで珊瑚ウォッチング

- ・館山湾の澄んだ海の豊かな生態系を海の上から見て体験してもらい、海を守ることの大切さを伝えたい。
- ・2人乗りシーカヤックで海面散歩し、併せて珊瑚等の海の生き物の生態系を解説する。

〔ガイド講座の様子〕



沖ノ島、早春の探訪 うちあげ海藻をひろうー



カヤックで珊瑚ウォッチング

(6) 自然体験活動ガイド養成講座受講生の声(アンケート集計表)

ガイド養成講座の受講を今後どう活かすか？

1. 既存の自然体験活動団体に入って活動する	3人
2. 自分で館山の自然をガイドするコミュニティビジネス(団体)を立ち上げる	1人
3. 自分の本業に生かしたい(本業: 宿泊業、草木染体験、育成牧場)	3人
4. その他	3人
<ul style="list-style-type: none"> ・身近にいる人達から、自分の経験を話していきたい。 ・新しい体験プログラムの作成 ・「戦争遺跡活用 NPO」設立に関わっているので、そちらで生かしたい。 	

今回のガイド養成講座の受講を活かすために、次に実施してほしい事業

1. ガイド養成講座の上級編	3人
2. 他の活動団体や行政・企業などの人脈づくり(仲間づくり)の場	3人
3. 館山の自然体験活動ガイドをする上での相談、アドバイス	1人
4. 館山の自然体験活動をサポートする機関の設置	5人
5. 受講者のネットワーク	5人
6. 活動拠点の設置	2人
7. その他(多くの体験プログラムを準備した農林漁業の体験、クラフト、料理、つもとり、オーナー等)	1人

コミュニティビジネス(市民活動)を支援する組織への期待

<p>いつでもだれでも入れる組織、システム作ってほしい。</p> <p>経済的支援 場所の支援</p> <p>環境を考えたエコロジーのための、市民活動組織を立ち上げてほしい。</p> <p>市民に声が届くようにPRを。</p> <p>私の希望・・・野球場を作ってもらおう。</p> <p>支援組織は、専門のスタッフを置いて、会費等で人件費を賄うようにし、そのスタッフが、営業活動(インターネットのホームページでのPRとか、各種旅行団体へのPR)も行うようにしないと発展していきにくい。</p> <p>体験プログラムの開発ができるスタッフが必要(組織化、体験内容のレベルアップ援助等)</p>

今回のガイド養成講座について、感じたこと

<p>数十年住んでいて知らないところが多すぎました。</p> <p>短い期間でいろいろ覚えるのは大変だった。けれども楽しかったです。</p> <p>勉強させていただきました。</p> <p>安全・余裕が大切だと痛感した。また、お客様ともっと会話ができるようになりたい。</p> <p>経験者の協力をお願い</p> <p>本物のガイドをやるところまでいくとは思っていなかったの、実践できてうれしい。</p> <p>自分の今まで関与しなかったジャンルのガイドが出来たことが良かった。</p> <p>長い期間をかけてでも、中級、上級編を開催してほしい。</p> <p>自分の意志ではなく、誘われて受講したのですが、館山の自然の素晴らしさと、楽しい人々との出会いがあり、ガイドをすることは、簡単な事ではないことがわかり大変有意義でした。でも、自分が感動したことは人にも伝えたいなあと思いました。</p> <p>アクティビティ作りの参考になった。新しいプログラムを作る際にも、今回の講座を参考に作って行きたい。</p> <p>きめ細かな配慮、演出のおかげで楽しく参加できた。</p> <p>途中、欠席のところもあったが、どの部分も有意義であった。</p>
--

2. 立ち上げ期の活動資金の提供

(1) 海辺の鑑定団の事業立ち上げに必要な備品・経費に対する支援

支援した備品

- ・デジタルカメラ（水中ケース付き）
- ・図書
- ・日本近海貝産貝類図鑑、日本の海藻、日本の化石800選、日本の化石600選
- ・フィールドBook海、地学のガイド、日本の淡水魚、南房総自然ガイド
- ・紙をパウチするラミネートマシーン（フィルム付き）
- ・ライフジャケット 大人用サイズ10着
- ・USB リムーバブルドライブ64メガ
- ・カップ等の雨具（30着）
- ・マスクシュノーケル
- ・貝アクセサリー用部品、ひも、ビーズ等

(2) たてやま・海辺の鑑定団のパンフレット

たてやま・海辺の鑑定団のPR用カラーパンフレット（1,000部）の作成支援

〔たてやま・海辺の鑑定団のPR用カラーパンフレット〕



(3) テーマ別合同観光キャンペーン「花」への参加

たてやま・海辺の鑑定団は、
「南房黒潮観光連絡協議会」の
一員として参加した。

〔キャンペーンの様子〕



テーマ別合同観光キャンペーン「花」の概要は以下のとおり

目 的	余暇時間を利用した旅行需要の拡大及び観光による地域振興を図るため、「花」を共通の観光資源とする各地域観光協会等が協力して、地域に密着した合同キャンペーンを開催し、消費者にタイムリーな観光情報の提供を集中的に行い、より効果的な観光PRを行うとともに、旅行需要の一層の拡大を図る。
主 催	関東観光促進協議会
開催日時	平成16年2月14日(土)～15日(日) 11:00～18:00
会 場	横浜駅東口 新都市プラザ/横浜新都市ビル(そごう)地下2階 1日20万人が通行し、流通施設が隣接し配置されている場所であるため、買い物、飲食目的客の滞留・回遊性に富む特性をもつ場所

「館山市コミュニティビジネス創出プログラム」に参加して
たてやま・海辺の鑑定団

(1) たてやま・海辺の鑑定団とは

設立の趣旨

今、21世紀を迎えて、私達の生活は、今までの物質的な豊かさを求める生活から、心の豊かさを求める生活へ、そして自然環境や生態系を重視する生活への転換を考える時を同時に迎えております。人間も地球上の他の生物と同様、自然の中に生かされている事を再認識すべき時が来ています。

南房総には、地理的条件などによって開発をまぬがれ、農林漁業に従事する方々や地域を愛する方々が大切に守ってきた、恵まれた自然環境や歴史・文化が残っています。そこには、満天の星空を見ることが澄んだ空気、北限域のサンゴやウミホタルに代表されるたくさんの生物達が生息している豊かな生態系を育む海や山、地域を物語る様々な歴史や文化が存在します。

それらは、南房総の貴重な財産です。

その貴重な財産である恵まれた南房総の自然環境や歴史・文化は、今後も後世に伝えられるように守らなければなりません。また同時に、広く多くの人々にそれらを知ってもらい自然のすばらしさや大切さを、そして歴史の真実や伝統的な文化を直接「感じてもらう」ことは、一人一人が心の豊かさを育み、自然環境や生態系を考えるきっかけとなり、また青少年の健全な育成にも寄与するものと我々は考えています。更に多くの人々が南房総を訪れることは、地域振興にもつながります。

しかしながら、今までのそうした活動は十分な組織を持たない個人レベルで行われていたのが現実でした。

そこで、今までの先人達の意味を継承し、南房総の恵まれた自然環境や歴史・文化を守りながら、広く多くの人々に対して、「海辺の自然体験」を組織的に提供し、自然環境や生態系を考えるきっかけを与え、そして地域振興に寄与することを目的として「特定非営利活動法人たてやま・海辺の鑑定団」を設立いたします。

..... NPO 設立趣旨書より

(2) 支援プログラムで得たもの

起業化講座

CBの意味、CBの可能性、館山における今後の新しいCBの可能性

参加された皆様との新しいネットワーク

自然ガイド養成講座

先人達が経験によって培われていた内容を見よう見まねで行ってきた自然ガイドを、プロのガイドより初級編から実践編まで受講できたことは今後の活動において大いに参考になりました。また一般公募した方々との交流で将来のメンバー候補が出来たことも、大きな収穫となりました。

その他支援

NPO 法人として今後活動していくうえで、また自然体験活動を様々に提供するために必要なツールを支援により購入できた事は、今後の活動の基礎となるものが得られ誠にありがたい事でした。

(3) 今後の活動

支援を頂いた責任

ビジネスモデルと様々なご意見の再検討

新しい人と人とのネットワーク

他のCBへの協力の可能性(個人、団体として)

3. 特定コミュニティビジネス支援モデルの効果

(1) 特定コミュニティビジネス支援モデルの結果

- ・コミュニティビジネスは、人・物・金・情報といった経営資源が不足しがちである。

今回の支援モデルでは、

ガイド養成講座ではプロのガイドの指導を受けることで、自分の思いを如何に伝えるか、チームでやることの重要性など既存ガイド技術のレベルアップが図られたこと、海辺の鑑定団に新規会員が獲得できたこと、プロの指導者とのネットワークが構築できたことは大きなメリットとなった。

立ち上げ資金の提供では、活動する上で必要な資料や装備品などをそろえると共に、今後のPR用ツールとしてたてやま・海辺の鑑定団のパンフレットを作成した。

また、横浜で開催されたテーマ別合同観光キャンペーン「花」に参加し、県外でのPRの機会も得ている。さらに、今回の事業と独自のイベントでサポート連絡会議の房日新聞社をはじめとしたマスコミへの露出度が高まり、「たてやま・海辺の鑑定団」の名前は売れてきている。

(2) 特定コミュニティビジネス支援モデルの課題

- ・たてやま・海辺の鑑定団の活動フィールドは海であるが、漁業権の問題で活動が制約されることがある。現在では漁協とは良好な関係を保っているが、今後さらにたてやま・海辺の鑑定団が成長するためには、漁協との連携を強める必要がある。
- ・館山市の地域特性を考えると、コミュニティビジネス支援団体として漁協の方に早くから参加していただくことが必要であった。

(3) 今後の対応

- ・コミュニティビジネスは地域全体で育てていくことが必要である。経営資源が不足するコミュニティビジネスに対して、行政、商工団体、マスコミはもちろんのこと地元企業や農協・漁協といった機関も対象としたコミュニティビジネス支援のネットワーク拡大を図っていく。

2 - 7

南部地域での取り組みから得られた教訓

南部地域において実施した、コミュニティビジネス創出・育成のモデル事業から得られた教訓は以下の通りである。

コミュニティビジネス事業者の発掘には起業化講座が有効

- ・コミュニティビジネス予備軍は、どの地域にも必ず存在している。地域に対する熱い思いを持っているが、それを形にする術がわからない市民が多い。
- ・起業化講座では、講師の巧みな指導もあったが、実に様々なビジネスコンセプトが出てきた。
- ・起業化講座により、地域に埋もれていた（気が付かなかった）コミュニティビジネス予備軍が顕在化してくる。

コミュニティビジネス予備軍は仲間づくりを期待している

- ・起業化講座の受講者アンケートでも、仲間づくりに関する支援への期待が高い。
- ・南部地域では、起業化講座終了後、一ヶ月とおかず交流会を開催した。交流会では「定期的に開催してほしい」、「なかなか交流できない方と出会えた」等の声が聞かれた。起業化講座を単発で終わらせず、次の交流の場を設定することが必要となる。

よそ者・若者・ばか者の意見に耳を傾ける

- ・南部地域コミュニティビジネスサポート連絡会議では、地域外のコミュニティビジネス事業者の方にも委員として参加いただいた。その方の言を借りれば、コミュニティビジネスを地域で興すには、「よそ者、若者、ばか者」が必要である。地域の中において見逃しがちな地域の良さや資源を指摘してくれるのはよそ者であり、常識外の発想・行動を起こすのは若者でありばか者である。
- ・起業化講座、ガイド養成講座の受講生には、館山市の気候や自然環境に憧れて、移り住んできた移住組みの方が多く参加していた。外で暮らした経験のある市民には地域に対して「何かしたい」という思いを持っている方が多い。

コミュニティビジネスの活動に実際に参加してみる

- ・特定コミュニティビジネス支援モデルでは、たてやま・海辺の鑑定団の活動を実際に体験した。
- ・実際の活動に参加することで、コミュニティビジネス事業者が、活動を通して何を伝えていきたいのか、活動の源泉になっている思いを知ることができる。
- ・コミュニティビジネスの本質を知るには、事業者の話聞くことも大事だが、活動に参加してみることも重要である。

実際に事業を動かすことで支援者側の意識も変わる

- ・コミュニティビジネスは新しい概念であるがゆえに、地域の支援機関でもコミュニティビジネスに対する理解度は低い。南部地域のサポート連絡会議でも、当初は、意見がうまくかみ合わない状況にあった。
- ・しかし、実際にモデル事業を動かすことで、会議ではコミュニティビジネスに否定的であった方にも理解されるようになる。一方、計画はしたが実際には動けないというジレンマを持つ関係者も多いが、南部地域では市民を巻き込んでモデル事業を半ば強引に実施した。「動けば前に必ず進む」、「市民の反応が直接返ってくる」ということが実感でき、今後の企画運営面に自信を深められたようである。

何度も何度も繰り返す

- ・南部地域のサポート会議は集中的に3回開催したが、会議だけではなかなか理解が進まなかった。モデル事業を行うことで、意識が変わりはじめた。
- ・何度も説明することで、必ず理解は得られるものである。途中であきらめないことが必要。マスコミ等のパブリシティを活用し、目に触れる機会を増やすことも必要である。
- ・また、南部地域の会議のメンバーには、地元でコミュニティビジネスを実践している方がいなかった。第3回会議に「たてやま・海辺の鑑定団」を招いて話を伺う機会を設けたが、実際に身近でやっている方の意見は迫力があり説得力もあり、理解を早める一因となった。

マスコミとの連携

- ・南部地域コミュニティビジネスサポート連絡会議のメンバーには、地元のマスコミの方に入っていたいただいた。
- ・会議内容や、講座の内容などその都度、記事として扱っていただいた。講座のお知らせ等もお願いをしたため、南部地域では、コミュニティビジネスという言葉の露出度はかなり高くなった。
- ・また、特定コミュニティビジネス支援モデルの対象団体である「たてやま・海辺の鑑定団」は、今回の事業の他にも、独自のイベントでマスコミをにぎわし、かなり名が売れてきている。

国の事業に乗ってみる

- ・南部地域の事業では、館山市に積極的に関与していただいた。サポート会議のメンバー選定、地域の有力なコミュニティビジネス事業者の紹介、講座受講者の募集、マスコミ等との連携などで協力いただいた。
- ・国がやっていることだから、あまり関与しないという地方行政もあるが、地域のためになるという目指すものは一緒である。
- ・今回の事業では、国と市が頻繁に打合せをし、密な連携を取り合い実施している。

最後は「人」

- ・コミュニティビジネスは、市民が主体となるものであるが、行政の力は不可欠である。黒子としてサポートできる行政マンが必要である。
- ・他地域の事例を見ても、コミュニティビジネスの先進地といわれる地域には、スーパー行政マンがいる事が多い。
- ・南部地域でも、会議の運営、モデル事業の実施を通して、館山市職員の協力をいただいた。館山市職員の方もコミュニティビジネスへの関心度が非常に高く、市民からの信頼も厚い方であった。こうした方の存在があつてこそ、地域にコミュニティビジネスが花開くと思われる。